

前期基本計画総合評価

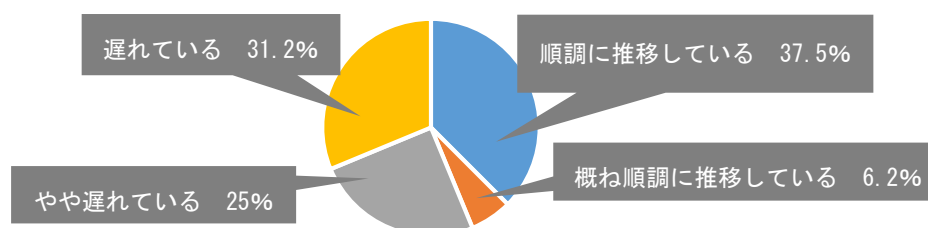
1 総合評価の方法

第2次総合計画では、基本事項「第2次総合計画を「進める」にあたって」に記載のあるように、当初は「施策の大綱」や「主要施策」の成果を示す「指標（成果指標）」に対する実績値により、評価を行っていました。

しかし、PDCAサイクルによる見直しと改善を行う過程において「施策の大綱」と「主要施策」の連動性が希薄なものもあり、これらを結び付けた評価を行うことが困難なものも散見されたため、前期基本計画における全体の進行管理は「施策の大綱」の指標に対する実績値により評価を行っており、総合評価においても同様とします。

2 施策の大綱の成果指標の進捗状況

進捗状況		施策の大綱
順調に推移している	6項目	1-1 自然環境の保全と景観の向上 1-2 快適な生活環境の創造 2-2 地域特産品の競争力の強化 4-1 歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進 4-2 次代を拓く教育と研究の推進 5-2 子育て環境の充実
概ね順調に推移している	1項目	2-3 地域産業の活性化と新たな雇用の創出
やや遅れている	4項目	2-1 地域を支える人材の就労支援 3-1 移住・定住の促進 5-3 健康長寿を目指すまちづくりの推進 6-2 持続可能なまちづくりの推進
遅れている	5項目	3-2 観光推進体制の強化と交流人口の拡大 3-3 情報発信力の強化とおもてなしの充実 5-1 結婚・出産の支援 6-1 災害発生を見越した防災・減災のまちづくりと安全・安心なまちづくりの推進 7-2 効率的な行財政改革の推進



3 参考（主要施策の成果指標の進捗状況）

基本方針	成果指標の数	達成状況	
		項目数	達成率
1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市	9	4項目	44.4%
2 伊豆の国市にしごとをつくる	10	6項目	60%
3 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる	13	4項目	30.8%
4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市	13	6項目	46.2%
5 子育ても人生も楽しい伊豆の国市	13	4項目	30.8%
6 安全で安心な伊豆の国市のまちづくり	15	7項目	46.7%
7 みんなで創る伊豆の国市	6	2項目	33.3%
全体	79	33項目	41.8%

※1つの主要施策に対し複数の成果指標が設定されているものあり

4 総合評価

前期基本計画は令和3年度までの5か年となっており、最終実績ではなく現時点（4年経過時点）における評価となります。

「施策の大綱」の成果指標における進捗状況では、2020年度期待値に対し「順調に推移している」又は「概ね順調に推移している」が43.7%に対し、「遅れている」又は「やや遅れている」が56.3%となっており、半数以上が「遅れている」又は「やや遅れている」との結果から、全体的には「順調ではない」＝「遅れている」との評価といえます。

前期基本計画期間中における主な成果としては、長岡スポーツワールド跡地を江間工業用地として整備し企業誘致につなげたことにより、基本方針2で目指している「就業機会の確保」に寄与しました。また、子育て支援センターの増設や預かり保育・子ども園化の支援を行い基本方針5で目指している「若い世代の子育てとしごとの両立」を支援しました。

一方、基本方針3では「定住人口の拡大」を目指しましたが社会動態の増減数が、また、基本方針5では「人口減少の進行の抑制」を目指しましたが0～14歳人口の減少が期待値を下回る結果となってしまう、現在の施策では人口減少に歯止めがかかっていない状況であり大きな課題として浮き彫りとなっています。

世界情勢や国内の状況においては、令和元年度から世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの発生により様々な分野において多大な影響を与え続けており、私たちの生活スタイルを一変させました。近年の異常気象がもたらす自然災害は、これまでの想定を上回る規模となり、市内においても甚大な被害をもたらしています。

後期基本計画策定では、このような激動する社会の変化や災害に対しても柔軟に対応できるような施策を盛り込むとともに、日々進化するデジタル社会に向けた取組についても積極的に展開していく必要があります。

なお、前期基本計画では、「施策の大綱」に設定された成果指標が、進捗を図るうえで適切かどうか判断が難しいものや、この計画の策定当時とは状況が異なり実績を追うことができないものもあり、成果指標の設定については今後の大きな課題の一つといえます。